



## 「担い手課」本格始動

本JAは、平成29年1月30日より実施している本支店機能再編の柱の一つとして、農家の高齢化による担い手不足を解決するため、「担い手課」を新設。担い手育成に努めながらJA自らが農地を管理・運営し、農業経営に取り組んでいます。

5月18日、同担い手課は、研修用農地の管理を本格的にスタート。同課と園芸課の職員合わせて10人が50㍏の区画中30㍏ほどの圃場に施肥と畝たてマルチングをしました。圃場には、同JAの園芸推進品目であるナスやトウモロコシを定植します。

ナスは5月末に苗の定植作業を行い、7月中旬に収穫。販売する計画です。

本JAでは、担い手育成として新規就農希望者を対象に実践的な研修を行い、生産・技術力の向上と新規就農実現のための農業経営を支援していきます。



畝たてマルチング作業をするJA職員

## 35頭を放牧場へ入牧



トラックから出てくる牛

本JAは、繁殖牛の健康と飼養管理の低コスト・省力化のため、5月9日、大崎市宮鳴子放牧場に繁殖雌牛35頭を入牧しました。

この日、放牧場には大崎市内各地から75頭が入牧。体重測定など健康状態を確認した後、放牧地に放たれると、青々と牧草が茂る広大な牧草地の中を自由に駆け回りました。

入牧に立ち会った生産者は「放牧することによって、足腰が鍛えられる上に、繁殖性も良くなる。栄養のある牧草を食べて丈夫な体を作ってほしい」と話しました。放牧された牛は本格的な冬を迎える前の11月ごろに生産者が引き取る予定です。

## 「ひとめぼれ」誕生の地で

### パナソニック炊飯器のCM収録

本JAは、パナソニック炊飯器「Wおどり炊き」のテレビCMへの音声出演依頼を受け、5月8日、本店で収録を行いました。これは、全国の米が美味しく炊けるという同炊飯器の性能をPRするため、各地の代表的な品種を地元の方に食べてもらおうという企画。宮城県「ひとめぼれ」の代表として、誕生の地である本JAが選出され、前受検組合運営委員会の鈴木正一委員長、佐々木雄一郎副委員長、古川農業試験場の永野邦明場長、本JAの佐々木稔組合長の4人が出演しました。

収録では、実際に新型の炊飯器で炊いた米を試食。「ひとめぼれ」の特性である、粘り・じや・うまみ・香りのバランスの良さを強調し、美味しく炊き上がっていると感想を述べました。

鈴木委員長は「古川が『ひとめぼれ』の代表として選ばれてとても嬉しい。これからも古川の美味しい米が広がってほしい」と話しました。

収録されたCMは、米市場が盛り上がる、秋の新米シーズンから放送される予定です。



収録で「ひとめぼれ」の特性についてインタビューを受けました